

れる思いもした。
しかし、私どもを温かく見守って下さる先生方のお導きと励ましがあったればこそ
と思ひ感謝にたえない。

あわただしく過ぎた27年ではあつたけれども、今思えばとても充実した日々であつた。40数年経って静かにあの時代を振り返りかえるとき、このような貴重な体験と思ひ出を持つ幸せをしみじみと感ずる。そして当時お世話になつた先生方、多くの友人との出会いの貴重なを、あらためてかみしめるこの頃である。

戦争の中での養成所時代

二期生
神原 信子
(旧金沢)

白き壁　しずかにながれ
みつむれば　白き壁
ちぎれてながれる

うららかな陽光の下、土の匂いのする草の上で輪になって、先生と一緒に私たちはよく歌をうたいました。

「保健婦養成所の思ひ出」といえば、まづキラキラとしたこの光景が浮んできます。大平洋戦争の中での青春、遠く懐かしき時代の思ひ出です。

昭和17年3月、私たちは第二期生は県内から17人集まりました。隠岐から4人、石見から6人、出雲が7人というクラスで、いろいろなアグセントや言葉が聞かれ、面白かつたものです。

我輩は当初、母衣町の県立松江高女のなかにありました。私は市立高女へ4年間通学し、また同じ道を家から通うことになりました。趣くして、北田町に女学校が移転し、私たちはそちらへ移りました。

当時の私たちの服装は、セーラー服の袴ははずしてしまい、各自で白い白袴を作つて縫いつけ、黒っぽいモンペのようなズボンをはいておりました。髪は髪へびつめてまとめ、おだんごにしてピンで留めるという何んともやぼりたい嗜好でした。

女学生の方たちと校庭に並んで朝礼を受けていますと年令はそんなに違わないのに私たちは「おばさん」という感じでした。

戦時中でしたので、何かと規制されていきました。今のようには映画館もあり、映画も

私たちはちゃんとした運動着が無かつたものですから、体育の時間に、飛んだり跳ねたり、逆立ちが出来なかつたのでクラス代表だつた山口さんが、体育の先生、担任の先生、私たちの間を行ったりきたりしてご苦労なかつたこともありました。

実技で思ひ出すことは、教室で始めて大根に注射して、注射の練習をしたこと、実習室での患者介護法、シーツ交換などの実習で、全身清拭法を教えられる三浦先生のあざやかな手技などは忘れられません。

2年目からは、人口問題、統計学などと共に本来の保健婦専業の職業に入りました。

三浦先生の情熱のほとばしるようなお話を聞く度に、胸がわくわくし、じつとしておれない気分になつたものです。保健婦という仕事を愛しておられる先生は、「あなた方はいつも鏡の中にいるつもりで、人から見られていることを忘れずに行動するように」と諭されました。先輩者の歴史、一期生の方々の活躍ぶりを語られ、中でも印象に残つたのは、牛のお産を手伝つて村中の評判になり、村人の信頼が厚くなつたという方のことです。私たちは早く第一級に出て働きたい、少しでもお国のお役に立ちたいという気持で一杯になりました。

病棟、保健所、共同炊事場、共同保育所、家庭訪問など実習がつづき、その間に江川が和盤し、水善救助に派遣されたりもし、卒業間際に最後の農村実習がありました。単身で1ヶ月間、彦成所で指定された村で下宿して、保健婦としての一人立ちが出来るか試されるわけです。私は半農半漁の村を割り当てられました。下宿は村主様のはなれで暗く、隣室に小学校の男の先生が下宿しておられました。始めて家から離れることや、仕事のことなどで相談する人もなく、とても不安でした。村役場では関係係へ配置され、学習した型どおり、基礎調査から始めました。そしておむつの干してある家を探しながらの乳原の家庭訪問の毎日でした。赤ちゃんはお米の粉を薄めてミルク代りに飲んで育てており、昼間はおちいさんやおばあさんが面倒をみている家庭が大半でした。

赤ちゃんを裸にして風呂敷にくるみ、風呂敷ごと簡易体重計で測りますと、重くなつた、大きくなつたと大驚喜ございました。

関係加入者の家族が対象でしたので、訪問した家の近くにおむつが干してあつても「今日は、赤ちゃんお元気ですか。」と声をかけるだけで素通りしてしまふのがとても心苦しく思つたものです。

お土産だといって沖で釣れたいかをよくもらいました。バスの便はなく、夕陽が海に沈む景色をみながら、急ぎ足で役場への遠い道のりを歩きました。

いかをばらさけて下宿へ帰り、余興困つた顔をしていたらしく、隣室の先生が暗く

上映されていましたが、勝手に見に行つてはいけなかつたのです。私はどうしても見たいフランス映画があり、こっそり見に行つてしまい、あとでひどいお叱りをうけたこともありました。

御指導下さつた先生は、日本でも超一流で精熟あふれる先生方でした。三浦先生と橋本先生のお婆は今も心にやきついています。

三浦先生は勉力的で華やかなお人柄でした。レースの袴の袴のついで紫と白の細かいチェック模様の洋服がよく似合いで、早口の力強い言葉で私たちの心をぐいぐい引張つて下さいました。

橋本先生が始めて教室にお立ちになった時の印象は忘れられません。姿勢がよく、紺のスーツにピンク色のブラウスを着ておられ、言葉は歯切れよくとても素直でした。そのような生き生きとした先生方にふれているうちに、私はあそこがれとともに、心が大きく躍りました。

ひょんなことからすすめられて、何が何だかわからなまま、保健婦養成所の門をくぐつた不安が消しとんでいきました。はじめの1年間は看護婦必修科目が主で、一般教養、体育などもあつたように思います。人体解剖学、内、外科、産婦人科学、理学療法など、市内の関係医の方や、日赤病院の先生方が担当されました。

なぜ病気をすると、まず熱が出て、そして腫むのだろうか、どうして同じような病気がいっぱいあるのかしら……。そんな素朴な疑問を心の中で繰返しながら、気の遠くなるような内科学に耳を傾けていました。解剖学はとても興味深く、黒板に大きく図を書いて説明されました。女学校の生理解の女の先生が、私たちの質問に対して、教室から下りてしまわれ「もうこれ以上詳しく説明ができません。」と云われた時、知りたかつたことなどが解明出来て嬉しかったものです。

母が産婆だつたので、産婆学の本は家にあり、よく見ていたこともあつてか、分娩機転のところなどは、自然の理理の素嗜しさに、ただただ感嘆したものです。ときには沐浴や診察について行き、母の手つきを見たものです。校長先生の古代文学や宗教のお話しは、楽しい時間でした。怖いようなお顔からは想像も出来ない油得のお声で、万葉びとの喜び、哀しみを詠った歌を朗々とうたいあげられたものです。また歌麿妙のなかの「善人なおもて養生をとぐ、悪人をや」というくだりは重みがあり、それから九条武子、岡本かの子、倉田百三などへと讀書欲がひろがりました。

なりかけた井戸端へ行つて、さささと洗つてすつといかの皮をはぎ、器用に刺身を作られたので、その時は本当にびっくりしました。

ある朝役場へ行きますと、机の上に員が2個盛いてありました。何かのおまじないかしら、衛生上何かあるのかしらと気になる、そつと会計係のおじさんに尋ねました。「あれはね、僕のあわびの片思い。ということだよ。」

思わす役場の中を見渡しました。会計係のおぢさんは50すぎだつたでしようか。小太りの好々爺という感じの人で、お茶の入れ方とか、歩き方などいろいろ細切に教えて下さる方でした。

後日談ですが、卒業後あわびの窟が訪ねて来られました。意外な方でした。

警察、学校、託児所など関係する所へははじめに挨拶廻りはすませておりましたが、1週間後、小学校から使役の人が役場へ見えて、明日午後学校へ来るようにという伝言がありました。

心配してしたので、前の晩に、近所へ下宿しておられる女の先生の所へ聞きに行きました。

この方とは小学校の頃にたまたま一軒おいて隣りの家で親しくしており、女学校も先輩の方でした。始めて小学校へ挨拶に行つた時に、何年振りかでお会してお互に驚いたのです。「若い保健婦の卵が、どの位保健婦生の知識があるのか質問しようということになつたらしい」とのことでした。

翌日意気揚々と小学校の坂を登りました。会館室のような部屋に5~6人の男女の先生が集まつておられ、結核のこと、ツベルクリン検査の判定のこと、村の衛生状態のことなど聞かれたように憶えています。

農村の実習は、世の中へはじめて一人で飛び出した時の試験の連続でした。

昭和18年春に看護婦検定試験、昭和19年春に産婆検定試験を受験し、保健婦免状は卒業と同時に頂くことになっていました。

昭和19年3月卒業の日、私はまだ盛をつかむような如様のままで卒業しました。が、保健婦養成所で得たことは、血となり肉となって体に刻みこまれました。その上、一生の恩師と仰ぐ方々にめぐり合うことが出来たことは最大の喜びであり幸せでした。

1. 卒業期別回答状況

(昭和59年9月調)

卒業期	1	2	3	4	計
卒業年月	S 17. 9	S 18. 3	S 20. 8	S 21. 12	
卒業生数	58 (35.23)	16	26	19	119
調査用紙送付数	48 (27.21)	13	17	16	94
調査用紙回答数	35 (22.13)	7	15	12	69
回答率	72.9	53.8	88.2	75.0	73.4%

※ 1期のみ松江、浜田の2ヶ所にて養成

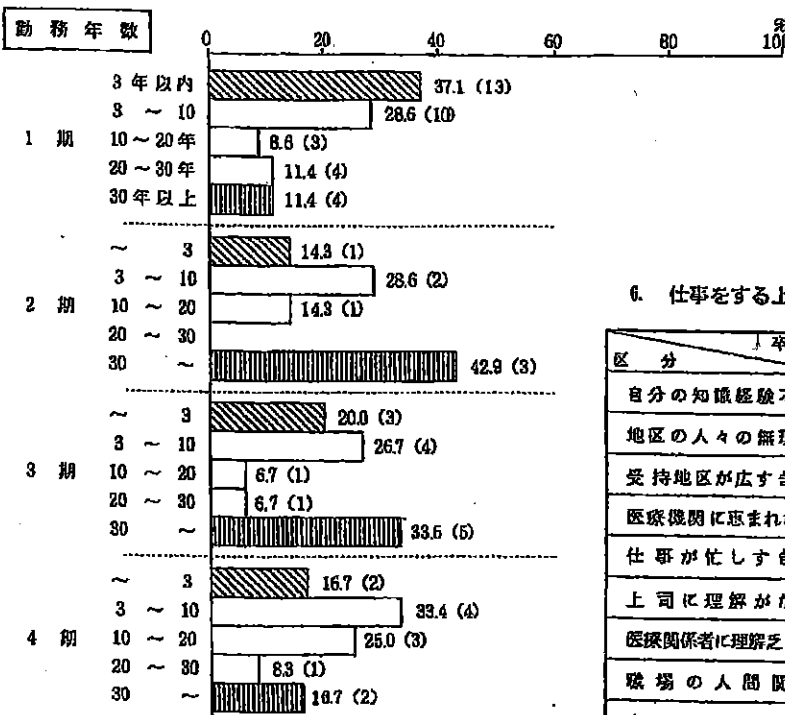
2. 保健婦養成所への入所の動機について

卒業期	1	2	3	4	計
入所への動機					
周囲の人のすすめ	29 (82.9)	3 (4.29)	4 (26.7)	3 (25.0)	39 (56.5)
専門知識を得たい	16 (45.7)	5 (7.14)	7 (46.7)	7 (58.3)	35 (50.7)
戦争激化と国策に協力	7 (20.0)	1 (1.43)	7 (46.7)	5 (41.7)	20 (30.0)
その他	1 (2.9)	1 (1.43)	5 (33.3)	6 (41.7)	12 (17.4)
回答なし	1 (2.9)	0	0	0	1 (1.4)

※ 複数回答、()内は回答総数に対する比

3. 「保健婦」とは何かを入所前から知っていたか。

卒業期	1	2	3	4	計
保健婦について認識					
知らなかった	30 (85.7)	2 (28.6)	4 (26.7)	3 (25.0)	39 (56.5)
新聞等で知った	4 (11.4)	1 (1.43)	3 (20.0)	1 (8.3)	9 (13.0)
知人に保健婦がいた	0	2 (28.6)	4 (26.7)	5 (41.7)	11 (15.9)
その他	0	2 (28.6)	4 (26.7)	3 (25.0)	9 (13.0)
回答なし	1 (2.9)	0	0	0	1 (1.6)
計	35 (100)	7 (100)	15 (100)	12 (100)	69 (100)



6. 仕事をする上で最も苦労したこと

卒業期	1	2	3	4	計
区分					
自分の知識経験不足	25 (71.4)	4 (57.1)	12 (80.0)	9 (75.0)	50 (72.5)
地区の人々の無理解	14 (40.0)	2 (28.6)	4 (26.7)	2 (16.6)	22 (31.9)
受持地区が広すぎる	12 (34.3)	2 (28.6)	5 (33.3)	3 (25.0)	22 (31.9)
医療機関に恵まれない	15 (42.9)	1 (14.3)	3 (20.0)	0	19 (27.5)
仕事が忙しすぎる	7 (20.0)	2 (28.6)	2 (13.3)	4 (33.3)	15 (21.7)
上司に理解がない	2 (5.7)	2 (28.6)	2 (13.3)	3 (25.0)	9 (13.0)
医療関係者に理解乏しい	2 (5.7)	0	1 (6.7)	0	3 (4.3)
職場の人間関係	0	0	1 (6.7)	0	1 (1.4)
家庭と仕事の両立	0	0	0	1 (8.3)	1 (1.4)

※ 複数回答

(表1)

業務内容

卒業期	1	2	3	4	計	順位
業務内容						
家庭訪問	32 (91.4)	6 (85.7)	14 (93.3)	12 (100.0)	64 (92.8)	1
生活及び環境改善指導	29 (82.9)	3 (42.9)	9 (60.0)	3 (25.0)	44 (63.8)	2
集団検診	22 (62.9)	1 (14.3)	8 (53.3)	11 (91.7)	42 (60.9)	3
健康相談	17 (48.6)	3 (42.9)	11 (73.3)	9 (75.0)	40 (58.0)	4
衛生教育	18 (51.4)	2 (28.6)	8 (53.3)	10 (83.3)	38 (55.1)	5
妊娠指導訪問	16 (45.7)	2 (28.6)	11 (73.3)	8 (66.7)	37 (53.6)	6
学校衛生	18 (51.4)	1 (14.3)	8 (53.3)	10 (83.3)	37 (53.6)	7
衛生虫予防	14 (40.0)	3 (42.9)	9 (60.0)	10 (83.3)	36 (52.2)	8
地区の実態調査	21 (60.0)	4 (57.1)	7 (46.7)	3 (25.0)	35 (50.7)	9
伝染病予防	15 (42.9)	3 (42.9)	8 (53.3)	8 (66.7)	34 (49.3)	10
保健婦活動のPR	18 (51.4)	2 (28.6)	5 (33.3)	7 (58.3)	32 (46.4)	11
予防接種	12 (34.3)	5 (71.4)	5 (33.3)	10 (83.3)	32 (46.4)	12
共同炊事指導	23 (65.7)	2 (28.6)	3 (20.0)	1 (8.3)	29 (42.0)	13
栄養改善	14 (40.0)	1 (14.3)	4 (26.7)	8 (66.7)	27 (39.1)	14
地区組織育成	18 (51.4)	1 (14.3)	2 (13.3)	1 (8.3)	22 (31.9)	15
戦時特殊活動	14 (40.0)	2 (28.6)	4 (26.7)	0	20 (29.0)	16

※ 複数回答 ()内は回答者数に対する比

年次別にみた資格取得の状況

(%)

年月日	免許	養成所卒業	検定	付則免許	その他	計
昭和15. 9.15	0	0	0	52 (100)	52 (100)	
" 17.12.30	58 (33.7)	9 (5.2)	106 (61.1)	0	172 (100)	
" 22.11.	68 (40.0)	87 (51.2)	16 (8.8)	0	170 (100)	
" 30.10.	27 (19.0)	106 (73.9)	8 (6.3)	不詳 1 (0.8)	142 (100)	

※ 30年の養成所卒業生中2名は補助看護士によるもの

【出典】

- 資料1 島根県立保健婦専門学院ほか『草わけの保健婦養成』1985年より。
- 資料2 大國美智子『保健婦の歴史』医学書院、1973年より。
- 資料3 資料1・4および『島根県保健婦会発足20周年記念誌』1962年より作成。
- 資料4 『島根県社会保健婦養成所並高等女学校保健科の概要』より。
- 資料5 資料1と同様。
- 資料6 歴史学研究会編『日本史史料 5現代』岩波書店、1997年より。
- 資料7 『愛国婦人会雑誌』東出雲町役場所蔵文書。
- 資料8 資料1・4および『島根県保健婦会発足20周年記念誌』1962年より作成。
- 資料9 資料4と同様。
- 資料10・11 資料1と同様。
- 資料12 『島根新聞』1942年7月24日。
- 資料13 『島根産業組合新聞』1944年2月21日。
- 資料14～20 資料1と同様。